

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0175300250		
法人名	有限会社ケアサポートますむら		
事業所名	グループホームファミリーみどり		
所在地	〒093-0098 網走市緑町1番10-6号 (電話) 0152-44-6282		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年12月1日	評価確定日	平成22年1月5日

【情報提供票より】 (平成21年 10月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	12年	8月	1日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	14人	常勤	8人,	非常勤 6人, 常勤換算 4人

(2) 建物概要

建物構造	木造建築	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000	円	その他の経費(月額)	18,000~21,000	円	
敷金	有()	円		無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()	円	有りの場合償却の有無		有 / 無	
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり		1,400	円		

(4) 利用者の概要 (10月 25日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	1名	要介護2	3名			
要介護3	2名	要介護4	0名			
要介護5	3名	要支援2	0名			
年齢	平均	81.5歳	最低	75歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道立向陽ヶ丘病院、網走脳神経外科リハビリテーション病院、後藤田医院、浜むき医院他
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、網走駅より徒歩10分で、周りは住宅地である。玄関を入ると、管理室、食堂、台所、居間を見渡すことができ、どの位置からも利用者の様子が分かる作りになっている。居間の廊下に記念写真、利用者の作品が掲示してある。居室にはベッド、タンス、仏壇、遺族の写真など馴染みの物を持ち込み、利用者は落ち着いた暮らしができています。職員は丁寧な介護計画に基づいた支援をするなど、利用者が安心して生活を送ることができるよう努めている。また、地域の一員として、交流もスムーズに行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	課題となっていた浴室の改装が済み、入浴を楽しむことができるようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	3人の職員が中心となり一人ずつ自己評価を持ちより、記録者がまとめ、さらに、管理者が確認し作成している。全職員参加のミーティングで報告し、改善点がある時は全員で課題を共有し利用者への支援に活かすようにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、自己・外部評価、浴室の改修、外部研修実績、検索ネットワークについてなど、その時々課題を幅広く提起している。会議は懇談会形式で、打ち解けた雰囲気の中で意見を出し合い、出された意見などを日常の支援に活かす取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は毎回運営推進会議に出席しており、その時に家族の意見を聞いている。内部苦情の窓口は管理者となっている。苦情がある時は、全体ミーティングの中で問題を共有化し事業所の運営に活かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は町内会の会員であり、町内会にホームの応援団としてのボランティア部が設置され、定期的に事業所を訪問している。また、災害時の協力体制も整っている。町内会を対象に「認知症サポーター養成講座」を事業所で実施するなど、地域との連携を図るよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設時に、管理者と創設者は、外部の助言を受け「ゆったりと、一緒に楽しく、その人らしく、豊かに」の理念をつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	社内研修で、月一回全員で理念を唱和して確認している。また、玄関や居間など、目に見えるところに理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、町内会の会員になっており、会合には必ず参加している。地域住民より野菜、魚の差し入れがある。町内会にホームの応援団としてのボランティア部が設置されていて、定期的に事業所を訪問している。さらに、町内会を対象とした認知症サポーター養成講座を実施するなど、日常的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	3人の職員が自己評価をし記録者がまとめ、管理者が確認し、職員に配布、報告をしている。自己・外部評価を元にサービスの再確認ができるので、改善点を見つけた時には全員で見直し、利用者への支援に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己・外部評価、職員研修、検索ネットワークについてなど、事業所の運営や取り組みの状況を提示し、意見交換を行っている。また、会議での意見を職員ミーティングで共有化し利用者への支援に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉課担当者から、事業所に関わる情報提供などもあるなど、連携が取れており、市とともに利用者への支援の質の向上につなげている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりを詳しく報告している。遠方の家族にはホーム便りにて報告をしている。	○	今後は、ホーム便りをプリントして写真を載せるなど、書面で報告する取り組みに工夫することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は運営推進会議に毎回出席しており、そこで意見を聞いている。また、苦情窓口を内・外に設置しており、会議に出席していない家族の意見も聞く体制がある。苦情等がある時には、職員全員で問題を共有化している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定年、結婚、出産の理由で職員の異動があったが、その時々で丁寧に話をするなどの対応をし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は月1回実施している。外部研修は資格取得、認知症サポーターキャラバンメイト養成研修、計画作成者研修、職場内訓練養成研修等に参加している。研修内容は、全職員出席の内部研修の場で報告をし共有化している。欠席の職員には資料を渡している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同志の協力でグループホーム協議会を作り、管理者と職員が会の役員になるなど、積極的に参加し、交流の場を多く持つようしており、これらの活動を通じて、サービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と面接や事業所の見学を繰り返すことで、安心感のある雰囲気づくりに努め、職員に慣れて自然に馴染みながらの利用開始となるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の楽しみごと、悩み、希望を職員全員で把握するよう努めている。職員は、利用者とは話をし、歌を唄う、調理をする、洗濯物を片づける、網走の歴史を学ぶなど、共に過ごす時間を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ、一人ひとりの思いや希望を本人と家族から聞き取り、記録し職員全員で共有することで、できるだけ本人の希望に沿った支援につなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの担当を決め、アセスメントとモニタリングを行い、本人や担当者を中心に、職員ミーティングで意見を聞きながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度介護計画の見直しをしている。また、途中で利用者に変化がある時は、その都度本人、家族、ケアマネージャー、担当者、管理者で見直し、新たな介護計画を作成し、全体ミーティングで報告している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の送迎はほとんど事業所対応であり、付き添いの要望にも応じている。また、事業所で法要を行うこともある。ヤングボランティア、中学校の総合学習の実習、バレーボール少年団ボランティアを受け入れるなど、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりのかかりつけ医と連携は取れており、定期的な受診や緊急時にも対応しており、必要に応じ往診も対応している。訪問看護ステーションとも良好な関係であり、十分な医療支援を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、本人や家族と利用開始時に話し合い、できるだけ方針を共有化するようにしている。また、ターミナルケア研修会に6名の職員が参加しており、職員全員に報告を行い共有化している。今後は書面化する予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の性格を理解し、プライドを損ねることのないよう言動には、十分気を付けている。また、管理者の指導により、適切に書類を保管するなどプライバシーの確保にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者の意志や意欲を尊重している。また、可能な人は自室の掃除や食器洗いをしている。利用者一人ひとりのペースを大事にした支援を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の食材と庭で採れた野菜を使ったメニューをもとに、食べやすい大きさに切った食材を味良く調理し、和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。職員と利用者は、一緒に配膳、後片付け、味付けをするなど、互いに協力しあい食事の準備をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	課題となっていた浴室の改装が済み、利用者個々の希望に沿った入浴支援ができるようになった。入浴は週2回としているが、利用者の要望がある時は、その都度対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの思いとできることを把握している。自室の掃除、食事の準備、後片付けなどの役割、散歩、買い物、裁縫、歌を唄う、ゲームをするなどの楽しみごとや、一人ひとりの力を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、スーパーでの買い物、ドライブ、市及び町内会の行事への参加、庭の野菜作りを楽しむなど、日常的に外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため、夜10時から翌朝6時まで鍵をかけているが、日中はかけていない。また、ケアマネジャー連絡協議会でSOSネットワークを作り、管理者はそのメンバーに加わるなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には町内会役員に連絡するなど、町内会との協力体制ができている。また、全職員が救命救急講習を受講し、災害に備えている。なお、避難訓練は年1回であり、町内会が参加しての訓練を実施するまでには至っていない。	○	現在年1回の訓練を年2回とし、町内会が参加しての避難訓練の早期実施を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、一日1,000～1,200キロカロリーとし、利用者の体重により増減をしている。また、水分量チェックシートをつけている。一人ひとりの体調により主食の増減、甘味料を制限するなどの支援をしている。なお、栄養バランス等について専門職のアドバイス等を受けるまでには至っていない。	○	職員が実施しているカロリー計算表を、今後は市の保健師などにアドバイスを受けることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下は安全に移動できるようになっており、食堂、居間、台所は清潔に保ち、季節の花を飾っている。居間からベランダに出て庭の手入れができ、近所の住民との触れ合う機会となっている。不快な音やにおいもなく、快適に過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や小物を持ちこむなど、本人の希望を聞き、今まで住んでいた環境に近い雰囲気づくりに努めている。自室で居心地良く安心して暮らせるように工夫している。		

※  は、重点項目。